



## CONTENTS

- 大学の勉強で教養が身につくのか？  
入学センター所長 法学部教授  
清滝 仁志
- 平成 27 年度公開授業の実施について  
■平成 27 年度「公開授業」を参観して  
法学部准教授 田中 優企  
医療健康科学部学部長 瀬尾 育武
- なぜ今、アクティブ・ラーニングが  
求められるのか？  
経営学部教授 青木 茂樹
- FD 推進委員会の今後の活動予定
- FD 研修会開催のお知らせ

## 大学の勉強で教養が身につくのか？

入学センター所長  
法学部教授 清滝 仁志

カナダでの在外研究時、大学の講義を受けたが、驚くのは、いくら著名な教授であっても、講義アンケートを取り、休講の際はきちんと補講をすることである。そしてオフィスアワーでは丁寧に話を聞いてくれる。講義で私語をする学生はいないが、授業に飽きて、PCで動画を見ている者などはいらる。それでも彼らにしっかりと対応することが徹底している。学問的名声だけで、授業はできないのである。

最近の国立文系廃止論議にみられるように、大学での知識と実務で求められる知識との乖離がますます大きくなっている。とくに歴史や思想は、世界的にみても不人気で、その二つが合体した政治思想史という私の担当科目は肩身が狭い。研究者志望でもない限り、古代ギリシアの歴史やマキアヴェッリの政治思想を聞いて何の役に立つのか、と学生が思っても不思議でない。

主に人文学を擁護するのに、洞察力や思考力の養成など、基礎的教養の大切さがよく力説されるが、理念はともかく実際はどうであろうか。難しい本をとにかく読むことが称賛された昔ならばともかく、趣味的知識の披露のような講義を聞いて、教養がついたと信じてくれる素直な学生は希少種である。現在、大学に職を得て、研究し、授業できる機会をもち、先生と呼ばれている教員には、自分の存在意義をわかりやすく、客観的に示す義務がある。入試部門の仕事をしていると、大学に入るとコミュニケーション能力がつくと自賛しながら、意味不明の話を延々としてしまうことの滑稽さが目につくのである。

今の大学で必要なのは、教員が自ら洞察力・思考力・表現力など教養を具体的に学生の前に示して、学問の魅力と意義を理解させることである。学者の仕事は、論文などを書くことだけでなく、次の世代に、自ら得た知的経験を直接伝えることも重要である。本を読む時間を割いて、成長過程の学生の話に耳を傾け、辛抱強く話すことは、ときにはいら立つこともある。しかし、ほんの少しでも彼らの人生に影響をもたらすことができるならば、この仕事に社会的意義があると思われる。

教員がこのような任務を果たすには、大学をしっかりと責任をもって運営する職員の支えが必要であり、教職員の職務分担を明確にしなければならない。FDは教員だけのものでないのである。

## 平成27年度公開授業の実施について

平成27年度「公開授業」を以下のとおり実施した。「公開授業」は、授業改善のための教員による相互研鑽を目的とし、工夫に富んだ授業に接し、その体験によるさまざまな発見を通して、今後の授業改善のためのヒントを得ることにある。公開授業は、各学部等のFD推進部会のご協力により、各学部等主体にて実施された。

学部	担当教員	実施日	時限	教場	科目名称
仏教学部	徳野 崇行	11/24 (火)	2	9-179	仏教文化史
	石井 清純 熊本 英人		3	禅研一坐禅堂	坐禅
	山口 弘江	12/3 (木)	1	9-172	仏教漢文入門
文学部	高橋 健太郎	12/7 (月)	1	1-202	村落地理学B
経済学部	吉田 真広	11/24 (火)	1	8-255	国際金融論 b
	増田 幹人			8-361	人口論 b
	松本 典子		2	1-301	非営利組織論 b
	清水 卓		3	9-391	現代西欧経済論
	岩波 文孝	11/25 (水)	1	8-150	企業管理論 b / 経営管理論 b
	矢野 浩一			1-201	経済統計 b
	北口 りえ			9-392	会計学基礎 b
	宮田 惟史			1-401	経済学史 b
	深見 泰孝			8-255	証券市場論 b
	鈴木 伸枝		2	9-401	経済外国書講読 I b / 外国書講読 I b 経済外国書講読 II b / 外国書講読 II b
	北口 りえ		9-392	税務会計論 b	
	小栗 崇資		3	9-392	財務会計論 b
	友松 憲彦		4	8-255	西洋経済史 b
	渡邊 恵一			8-360	日本経済史 b
	鄭 章淵	11/26 (木)	1	8-467	アジア経済論 b
	番場 博之			8-465	流通政策 b
	森田 佳宏		2	8-255	会計監査論 b
	明石 英人			8-151	社会経済学 b
	中濟 光昭		3	1-201	情報・経済ネットワーク論 b
	舘 健太郎			9-391	産業組織論 b
	瀬戸岡 紘		4	1-301	アメリカ経済論 b
	小西 宏美			8-257	グローバル・ファイナンス b
	江口 允崇		11/27 (金)	1	1-301

経済学部	山縣 弘志	11/27 (金)	2	8-151	ロシア・東欧経済論 b
	吉田 真広			8-255	貿易論 b
	明石 英人			8-360	経済理論 A・資本の原理
	増田 幹人		3	8-150	福祉経済論
	浅田 進史		4	9-391	経済史 b
	石川 祐二		5	2研-203	管理会計論 b
	西村 健	11/28 (土)	2	8-152	企業経済学 b
	曾我 信孝		3	2研-203	マーケティング b
	井上 智洋	11/30 (月)	1	1-301	経済政策 b
	代田 純		2	9-391	金融論 b
	長山 宗広			1-301	起業論
	荒木 勝啓		3	8-151	応用ミクロ経済学 b
	姉齒 暁		4	1-202	消費経済論 b
	村松 幹二			8-151	制度の経済学
	齊藤 正		5	1-302	現代銀行事情
	福島 浩治	12/2 (水)	1	1-516	経済外国書講読 I b / 外国書講読 I b 経済外国書講読 II b / 外国書講読 II b
	長山 宗広		2	8-152	地域経済論 b
	小林 正人	12/3 (木)	1	8-255	日本経済論 b
	松井 柳平		2	8-152	ミクロ経済学
	谷敷 正光		3	8-465	教育経済論 b
瀬戸岡 紘	4		1-301	アメリカ経済論 b	
村松 幹二	5		2研-102	契約理論	
福島 浩治	12/4 (金)	3	9-391	国際経済論 b	
光岡 博美		5	9-391	社会政策 b	
吉田 敬一	12/5 (土)	1	2研-102	中小企業政策論	
百田 義治	12/7 (月)	4	8-255	企業経営学 b	
法学部	村井 良太	12/3 (木)	5	1-401	政治史
	奥村 公輔	12/4 (金)	3	8-360	憲法
経営学部	小野瀬 拓	11/18 (水)	3	8-360	経営学
	日野 健太	12/3 (木)	5	8-150	経営組織論
医療健康科学部	保科 正夫	11/16 (月)	3	9-170	応用計測学
GMS学部	テヅカ ヨシハル	12/1 (火)	2	1-204	映像産業論
総合教育研究部	西村 祐子	11/18 (水)	3	1-406	英語ディスカッション II b
	坂野井和代	11/27 (金)	4	8-467	自然環境論

## 平成27年度「公開授業」を参観して

法学部 准教授 田中 優企

平成27年11月24日(火)1時限(8-255教場)、吉田真広先生による公開授業「国際金融論b」(経済学部各学科選択科目)を参観した。私の担当科目は「刑事訴訟法」であり、「国際金融論」に関する知識・理解については大学生の一般教養レベルにとどまっている。そのため、今回の参観にあたっては、国際金融論の入門書を懐に忍ばせつつ、主として授業方法・展開に焦点を当てながら拝聴することとした。そのようなこともあり、本稿では、当日の授業の概要を紹介した上で、異なる学問分野の授業でも参考になると思われる諸点についてのみ示していくこととする。

当日の授業は、「国際金融制度」を授業テーマとして、適宜、板書に基づきながら展開された。テキストは指定されていないため(参考書については吉田先生の著作が紹介されているとのこと)、学生のノートの筆記や知識の定着、学生の反応に合わせる形で、全体的にゆったりとしたペースで進められていたように見受けられた。私の授業などでも、授業中の学生の様子を見ていると、教員の話に耳は傾けているものの、その間、手は止まっているという姿を目にすることがある。教員が話している内容を自分なりに整理しながらノートに筆記するということが苦手なのかもしれない。そのようなスキルを学生に身に付けてもらうためにも、教員が授業のペースにより一層の気を配ることが必要となろう。

授業の冒頭、今回の授業テーマの目的・到達点が明確に示された。すなわち、国際金融制度(とりわけ現在の為替相場制度)を正確に理解すること、そして、そのためには、現在の制度に至るまでの変遷とその理由・要因を押さえておく必要があること、というものであった。学生に対して、その日の授業では何を学ぶのか(授業テーマ)ということはもちろん、何のために学ぶのか、そのためには何が必要なのかということについても予め明確にしておくことは、学生の理解の一助となろう。

また、授業を進行するにあたって、適宜、関連する専門用語についての共通理解が形成されていた。経済学と同様、法学の場合も数多くの専門用語が出てくる。私の場合、配当年次が3・4年生ということもあって、「これは既に学んで知っているだろう」という前提で話をしてしまった後に、これを別の機会に学生に確認してみると、実は理解していなかったということがある。学生の出だしでのつまづきを防ぐためにも、この点の配慮も必要となろう。

以上、非常に雑駁であるが、参観して気付いた点を挙げさせて頂いた。私の管見のため、吉田先生が払われた工夫・配慮を多々見落としていると思われるが、ご容赦頂ければ幸い

である。

末筆ながら、今回、異なる学問分野でありながらも、私の参観を快く受け入れて下さった吉田先生に改めて御礼申し上げます。



## 平成27年度「公開授業」を参観して

医療健康科学部 学部長 瀬尾 育武

平成27年11月16日(月)3時限、保科正夫先生による公開授業「応用計測学」(医療健康科学部3年)を参観させていただきました。本科目は、放射線治療と関わりの深い放射線計測の方法を学ぶものであり、興味深く拝聴した。

もう少し、具体的に言うと、高エネルギーX線や電子線の吸収線量の評価法にかかわる、線量計測のトレーサビリティ(現場で得た測定値と国家標準測定器による測定値とを関係づけることができ、しかもその測定値の持つ不確かさを量的に決められる)についての講義であった。

当日の授業は、最初に学生に先週出した宿題の解答を授業開始前に、黒板に回答を書かせ、その回答を説明するものであった。復習とその理解度をチェックする意味で大変有効であると感じた。私も、授業開始の導入として、是非、取り入れたい。ラグビーの五郎丸選手のようにキック前に両手を合わせるルーチーンを思い出した。

テキストは、自作のプリントを配布し、板書を交えながら展開された。

これに加え、授業の実施上の工夫として、

- ・実際の治療現場との対応を混ぜ、学生に興味を持たせ、話の進め方がうまい。
- ・説明はゆっくりで、板書もゆっくりで大きな字で読みやすい。
- ・時々、学生に質問をして、一方方向の授業にならないよう、また、理解度をチェックしている。

・途中で休憩をはさみ、また、立ち止まって振り返って、要点を説明している。

改善点をあえて言うなら、些細なことであるが、

・マイクを使用しているが、時々、ハウリングを起している。マイクの位置をもっと口に近づけてボリュームを下げるとうちが良いかもしれない。

・赤色のチョークは見づらく、後ろの席からだとうち見えないので、白か黄色のチョークが良い。

以上、私の私見で述べさせていただいたが、保科先生が払われた工夫・配慮を多々見落としていると思うが、ご容赦いただければありがたい。今回、貴重な機会を頂けたことに保科先生に改めて感謝いたします。

最後に、それにしても、参観者が少なかったのは問題である。教員がもっと真剣にFDに取り組むような工夫が必要と感じた。次回は、参観者を教員100%にして、その日のうちに、プラス思考のディスカッションができよう改善したい。



## 連載企画：よりよい教育のために

### なぜ今、アクティブ・ラーニングが求められるのか？

経営学部 教授 青木 茂樹

大学の講義科目での従来の一斉学習に加えて個別学習・協働学習へ、教えられる学びから主体的・創造的学びへの転換が始まっている。これらをアクティブ・ラーニング（能動的学修）というが、大学教員となる方は、学生時代、一斉学習の中でもそもそも主体的な問題意識を持って講義に臨んでいた方が多く、それこそがめざすべきアクティブ・ラーニングだと言う方も少なくない。

しかし、大学進学率が50%を超えた今日、多くの大学生が初めからそうした関心を持つことができている現状は認

めざるを得ない。大学の教員の気質は、むしろ今日は少数派であり（昔も？）、その意味ではアクティブ・ラーニングの必要性を感じにくいのが大学教員なのかもしれない。

ただ、2020年より一斉受験のセンター試験ではなく、大学入学希望者学力評価テストが導入されることとなり、多角的な能力評価をできているかどうか各大学のアドミッション・ポリシーに必要となった。と同時に、社会に求められる人材ニーズも高度成長期とは異なってきており、文科省の学力の定義も変わるようだ（中教審答申 2014.12.22）。学力の三要素として、①Performance（知識、技能）、②Competency（思考力 判断力 表現力）、③Attitude（主体性・多様性・協働性）が掲げられている。従来、①知識、技能という成績評価として表に出る力のみで測定していたが、これらを基礎に②思考力、判断力、表現力としてどのように活用できるかが問われている。さらに、単独ではなく、③多様な人々との協働の中で主体性を発揮して解決策を講じる人間像が求められている。

これまでの文科省の「学士力」や経産省の「社会人基礎力」といった新しい能力の概念化と調査研究の中で、粗方この方向性で大学教育が進むことが見えてきた現在、これに対応できない大学はこの業界から退出せざるを得ないだろう。

今年度、FD推進委員として初めてこれらを学ぶ機会を得て、私情協のセミナーで様々な実践例を知ることとなった。山梨大学の反転授業では、パワーポイントに解説を加えた15分程度のスライドショーの動画を準備して事前学習させ、講義ではグループ学習をさせている。理系科目でのテストの正解率の変化を見たが、いずれも伸び率が高いことが実証されており、会場でも反響を呼んでいた。

FD推進委員として視察に伺った多摩市の愛和小学校では、生徒が一人一台のタブレット型PCで調べものや算数をしたり、各自がタブレットに解いた答えを大型の液晶モニターに並列に映し出し、比較し合っていた。また、お絵描きソフトの利用は美術や図工ではなく、国語の物語の続きを各々で想像して描いているときもあるそうだ。LEGOを使ったロボットのプログラミングは、算数・理科・図工の総合力である。こうした超領域・学際的なテーマに多くの子がそれぞれのペースで無我夢中となる姿を見た。このとき、授業設計は以前とは異なるものとなるだろう。そして、何よりも彼（女）らが数年後には大学の門をくぐるのだ。

さて、年明けの2月1日（月）14時からのFD研修会には、このアクティブ・ラーニングを熟知された湯浅且敏氏をお招きしている。皆さんの疑問や悩みをぶつける場となることを今から楽しみにしている。

## FD推進委員会の今後の活動予定

- 平成27年度第6回FD推進委員会小委員会  
平成28年1月27日(水)
- 平成27年度第7回FD推進委員会小委員会  
平成28年2月16日(火)
- 平成27年度第5回FD推進委員会  
平成28年3月10日(木)

\*FD活動についてご意見がありましたら、各学部等のFD推進委員会小委員会委員まで申し出てください。

### 平成27年度FD研修会のお知らせ

平成27年度FD研修会を下記のとおり開催いたします。

記

日時：平成28年2月1日(月) 午後2時  
場所：1-301教場  
テーマ：「アクティブ・ラーニングの活性化をめざして」  
講師：湯浅且敏(青山学院大学情報メディアセンター)  
中嶋真也(文学部教授)  
長山宗広(経済学部教授)

(敬称略)

以上

※詳細については、後日、ご案内いたします。



## 編集後記

FD NEWSLETTER 第45号をお届けします。今号は、巻頭で入学センター長からの教員に向けた熱いメッセージから始まり、全学あげての積極的な「公開授業」、連載企画にみられる熱心な取り組みなど、寒いこの季節に芯から暖くなる先生方の熱気が伝わって来る号となりました。先生方のFD活動に対するこの様な前向きな意欲に対する手応えを感じ、年々本学のFD活動への取り組みが、順調に軌道に乗ってきていると考えています。公開授業に取り組んで下さった先生方、ご出席頂いた先生方、振り返りシートにご協力下さった先生方本当にどうもありがとうございました。今後とも駒澤大学のFD活動が、より活性化していくよう皆様とともにFD委員全員で努力してまいりますので、どうかよろしく願い申し上げます。

(熊坂さつき、田中優企)

【タイトル横の写真は、禅文化歴史博物館】

### FD NEWSLETTER Dec. 2015 第45号

発行日：2015年12月15日

発行者：駒澤大学FD推進委員会

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1

TEL 03-3418-9444 Fax 03-3418-9114

(事務局：教務部)